

福の里 グループホーム結

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を編み出し、目につく場所に掲げ、日々努力している。「自由な生活の支援」を、作成する。		
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議あるいは、朝礼・終礼などで話し、互いに共有し、日々取り組んでいる。		
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を、年に1～2度設け、意見を聞くと共に、理解してもらえる様に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域のゴミ出しの際に、挨拶・声かけをし、日常的な会話なども行っている。認知症という事も、管理者が話をし、理解してもらっている。		
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の消防団の方との交流や、今年度より、自治会への加入も参加し、地域活動への積極的な交流に努めている。	○	地域の方々とも、定期的に活動が出来る場を、増やして行きたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のゴミステーションの清掃を、行っている。AEDを設置している。	○	緊急時の勉強会などを開き、全職員が把握できる様にしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価して頂いた事を素直に聞き、会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、実施している。そこでの意見を参考にし、より良い活動が出来る様努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	行政の方等と、情報交換が出来る機会を作っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等、参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の資料を作成し、会議の中等で話し合い、職員同士の活発な意見交換を行い、知識を高め、見過ごされないよう、防止に努めている。	○	勉強会を、増やしていく。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、本人・家族に文書で示し、その上で説明を行っている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情については、家族と話し合い、解決に努めている。それらを、今後活かせるよう、努力している。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者一人ひとりの様子を「福の里便り」(入居者の写真・生活状況・行事の様子を担当者が記載)で、伝えている。また、面会時や、必要に応じて、電話をするなど、個々に応じた報告に努めている。	○	今後も、継続していく。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、年2回の家族会を開催し、食事を一緒にしたり、話しやすい雰囲気作りや、意見の収集、又、面会時にコミュニケーションを図り、相談や意見が出しやすいように努めている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や、各事業所の勉強会で、職員からの意見を聞く機会を設けている。	○	職員の提案や意見を参考にしながら、今後、検討していきたい。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、話し合いをして、勤務調整を行っている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安がない様に、出来る限りの異動・離職がない様に努力している。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用の際は、面接時に、チームケア・強調性の大切さを話している。性別・年齢が、採用の判断基準になっている。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	会議等で、話しをしている。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、勤務体制を配慮しながら、研修等への参加。また、月1回の研修・勉強会等、実施もあり、向上に向けての取り組みに努めている。		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、年1回、同業者との交流・情報交換等のディスカッションや、技術の講習等、勉強会を通じ、サービスの質に取り組み、努めている。	○	他事業所との交流を増やし、情報交換等を行い、サービスの質の向上を計りたい。
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会の親睦会を実施する等、また、今後、遠方での余裕のある研修や、宿泊研修等も考えられている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来るだけ、職員と話しをする機械を作り、向上心を持って働ける様、努めている。	○	職員の意見を聞く時間を、増やしていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安・不穏を訴えて来られた際は、職員は作業を一端中止して、訴えを傾聴し、少しでも不安を取り除ける様、努力している。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学に来られた際、施設内を見て頂いた上で、家族の不安・希望を伺っている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望であっても、利用者の体調・状況に合わせ、他施設の紹介や、デイサービスの利用等を勧める事もある。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬ様に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みながらのサービス利用の重要性を理解し、それを目的にデイを併設している。実際、デイ利用者からの入居移行が多い。デイ利用時から、行事等を通じ交流があり、馴染みの関係が築けている。又、入居前には本人と一緒にの見学を実施し、安心して入居していただける様に、相談等に応じている。長期プランの中で、利用者の不安を取り除ける様、職員の声かけや対応を担当者会議を設け、全職員が同じ対応が出来る様、努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事や、外出先で馴染みの場所を訪れ、思い出話を聞かせてもらう等、共感できる関係に努めている。また、日々の生活においても、茶碗拭き、洗濯物たたみ、花の水やり等、出来る範囲での役割を担ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事・外出等の連絡をし、共に共感し合える様、努めている。日々の生活で、コミュニケーションをとって頂いたり、工夫をしている。	○	今後も、行事参加等の声かけを行い、一緒に支援できるよう努めたい。
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時には、一緒に自室にて自由に過ごして頂いている。家族の宿泊も、受け入れている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、これまでされていた趣味等に関わるビデオ収録されたものを鑑賞して頂いたりしている。年賀状等も出し、また、面会に来られる方もおられ、利用者様も大変喜ばれている。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとり孤立する事なく、職員が、利用者同士の関係や性格等を把握し、一緒に行える事、会話などの工夫をしている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ転居した利用者に、会いに行ったりしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の力に合わせた、無理のない暮らしを、会議等を行い、職員間で検討し、希望・意向を考えながら行っている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントについて、ADL主体ではなく、生活歴や家族との話しの中での聞き取りや、入居者本人との会話の中から記載し、全職員が把握出来る様、努めている。	○	コミュニケーションを、今以上に図り、利用者の生活歴など、もっと知る様にしたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日1日、1週間、1ヶ月と、利用者の状態を観察し、そのときの状態・状況に合わせて、介助が出来る様、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なケアプランの見直しで、担当学会議を開き、必要なケアがあれば、かかりつけ医師や看護師からの指導を受け、家族に同意を求めている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者に変化が生じた場合は、その都度、職員間で話し合い、現状に即した、新たな計画を作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夕方・夜間と、1日を通し、個別の支援経過を記録している。ケアの内容・方法、特変時の対応法などを記録に残し、翌日の介助に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者または、家族の状況に応じ、サービス内容を説明し、支援している。	○	併設しているデイサービスを利用しながら入居を待ちたい、という要望が増えている。今後も、柔軟な対策を考えていきたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	会議や行事等に参加し、顔見知りになることから、災害時の協力をお願いしている。	○	今後も、地域の方とのコミュニケーションを、大切にしていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会や、研修等に参加する事で、他事業所との交流、情報交換を行っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を行い、地域包括支援センターの方にも出席して頂き、当グループホーム利用者の状況を知ってもらう事で、協力をお願いしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけの病院もあるが、入所前に受診されていた病院をそのまま受診されている方もいる。本人・家族の希望を尊重している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの病院の医師への受診、相談を行っている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの病院の看護師との電話相談や、グループホームの看護師との情報交換で、日常の健康管理に努めている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、定期的な面会、また、病院との情報交換を行い、1日でも早く退院出来る方向へ、相談を行っている。退院後のケアについてなど。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病気や、状態の情報交換。終末期の対応については、入所される時、家族会等で、家族の意向を聞き、対応できる様に努力している。	○	グループホーム職員、家族が、もう少し話しの出来る機会を設ける事ができ、終末期に対しての、家族の思いや、どのように過ごせたら良いか、聞いていきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホーム内で終末期を迎える事により、出来ない事が問題点に上がり、市や病院への相談、協力を仰ぎ、行っている。	○	もう少し、病院とグループホームが蜜に連絡を取れる関係になれると良いと思う。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の事業所への情報交換。生活状況、体調、服薬、受診状況など。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての尊敬の意を持って接する事を、心がけている。グループホーム内で得た情報は持ち帰らず、外部へ漏らさない。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	どんなに些細な事でも、自己決定できる様に、工夫している。	○	職員1人1人が、同じ気持ちでケアできる様に、もっと取り組んでいきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、体調や状態に合わせ、日々のレクリエーションに参加して頂いたりして行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員が定期的に散髪を行っているが、本人様より希望があれば、すぐ対応できる様、心がけている。毎日の身だしなみは、自立されている方はもちろん、介助が必要な方にも支援できている。	○	パーマ・カラーなど、今後希望される方も考慮し、その時には、他職の協力を得て行っていきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の一つとして、食事作りや、おやつ作り、また、その際のメニュー等、利用者様の希望を少しずつ取り入れている。昼食後のお茶碗拭きを、利用者様に手伝って頂いている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、喫煙される方はいないが、嗜好品を拒む事はしない。牛乳希望の方は、毎日の日課になっている。年に1～2度、飲酒できる企画(正月)を、持っている。本人持ちのおやつも管理し、提供している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、排泄チェックを行うと共に、決まった時間にトイレに座っていただき、排泄の習慣をつけていただくよう、支援している。	○	個人に合わせた言葉かけ、周りに気使った声掛け(大きさ)を、注意していきたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に応じ、実施している。週3回であるが、希望に応じ毎日の入浴も可能となっている。1人で入浴できる方については、職員がさりげない見守りを行う等の対応をしている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ、布団を敷く、もしくは、ベッド等で休んで頂いている。午後より、臥床時間を、とって頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事や、入居者の誕生会等を企画し、実施に努めている。一人ひとりの意思や状態に応じ、塗り絵、折り紙等を実施すると共に、役割についても、茶碗拭き、洗濯物たたみ等、出来る範囲で担って頂いている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前に、泥棒が居る・・・などの訴えがあった為、お金は所持していない。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、状態を見ながら戸外への園内散歩や、近隣の公園までの散歩等、できるだけ対応できる様、心がけている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を立て、前もって家族との連絡を取り、一緒に行ける機会を作り、ぶどう狩りや、みかん狩り等を実施している。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時などに、自由に電話をかけてもらい、また、手紙・はがき等も、季節に応じ書いてもらっている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方々には、入居者個人の居室を利用して頂き、談話して頂く。また、他入居者と気軽に過ごして頂ける様、一緒にレクリエーションの参加など行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。会議等で、職員全員が理解でき、充分に取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、門扉・玄関の鍵は施錠されておらず、オープンなグループホーム作りができています。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	担当職員を決め、安全に生活して頂ける様に、見守りしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や、体に害を及ぼす危険のある物は、手の届かない場所に置き、誤飲等あってはいけないうえ、職員が管理している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に、会議・研修を行い、防止に努めている。火災についても、消防訓練を行い、消防団の方からの指導を受けている。	○	今後も、勉強会を通じ、事故防止に取り組んでいきたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、対応出来る様にしている。また、会議等でも看護師から応急手当、処置の方法の指導を受けている。	○	緊急時における訓練を、もっと取り組んでいきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防訓練を行っている。地域の消防団の方々と連携を取り、火災時に備えている。	○	地域の方々との交流を増やし、災害時などには、消防分団の方以外にも、協力を得られる様にしていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会を開き、今後の事について、また、どのように過ごしてほしいか等、話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変のあった場合は、直ちに報告し、職員全員が把握できるように、努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、各個人の薬表を確認し、内容把握に努め、服薬管理に努めている。看護師とも情報を共有し、確認に努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し、確認の上、医師からの指示である薬を服用して頂き、便秘対策の対応に努めている。		

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前には、うがい・手洗いをし、毎食後には、口腔ケアを行う。自立されている方は、自己にて実施して頂き、介助の必要に応じ支援、実施している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表に、利用者一人ひとりの摂取量を記入する様になっているので、職員全員がチェック表を見て、把握できるようになっている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防マニュアル等、全員がわかる様に努めている。インフルエンザは、利用者全員が、予防接種を受けている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夕食後には、食器類を熱湯消毒している。	○	衛生管理の重要性について、知識を伸ばしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に、置物やポスター等を貼り、明るい雰囲気が出るように、工夫している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、食堂テーブル上には季節の花を飾ったり、廊下・壁面には、入居者の行事での写真、折り紙等を飾るなどしている。	○	家族の方など来られた際には、写真を見て喜ばれたりされている。今後も職員全員で、より良い環境を作っていきたい。

福の里 グループホーム結

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天窓からの自然光と、和室には、ゆったりと寛げるソファ、季節感を出す入居者の作品のカレンダーや、障子など、貼り絵した作品などもあり、居心地ヨイスペースの工夫がある。		
85	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の出入り口には、入居者の好みに応じてのれんがかかり、また、本人が今まで愛用されていた家具・寝具等が、持ち込まれており、居心地の良い空間となっている。		
86	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日決まった時間帯で、全居室・食堂・和室と、空気の入替えを行い、また、空気清浄器を取り入れ、実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし、段差をなくしたり、手すり等を設置して、安全に過ごして頂けるようにしている。		
88	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事はして頂き、常日頃の見守りを行った上で、出来ない事も一緒に、声かけし行っている。また、各部屋に、表札を飾るなどしている。		
89	○ 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴もかね、周囲の散歩や、天気の日には、ベランダでの体操などを行っている。	○	今後も、利用者様に活用して頂けるよう、環境作りに、取り組んでいきたい。

福の里 グループホーム結

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

福の里 グループホーム結

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の仕事がシフト制の為、情報・連絡事項等を、引き継ぎノートを作成し、こまめに申し送りをおこなっている。入居者の生活状況、体調管理等の、情報共有が良くなされている。